

清純派女優

二十四歳

第四卷

背徳のヘアヌード写真集 前篇

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 写真集の打ち合わせ

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

■ 著作権について

「清純派女優 二十四歳 第十三巻 背徳の
 ヘアヌード写真集」(以下本書と表記する)
 の著作権は「海老沢薫」にあります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
 及び国際条約によって保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し
 た場合を除き、本書の一部、または全部を、
 あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファ
 イル、ビデオ、テープレコーダー)により複
 製、流用、転載、転売することを固く禁じま
 す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
 119条などの罰則がありますのでご注意くださ
 い。

■ まえがき

主演するドラマの撮影がようやく終わり、
ホッとするのも束の間、人気清纯派女優の我
妻結衣は憂鬱な面持ちで新たに製作する写真
集の打ち合わせ場所へと向かっていた。
得体の知れない脅迫者の存在に怯え、も
はや懂れてなっただけの女優という仕事さえ
辞めてしまえばいい気持ちで一杯な結衣だったが、
定期的に送られてくる脅迫者からの羞恥命令
がそれを許さなかった。
打ち合わせ場所の撮影スタジオに着いた結
衣は、そこで写真集のプロデューサーを務め
る井上という男とプロカメラマンの芦田とい
う二人の男と出会う。
彼らの意味深な表情に結衣が嫌な予感を覚
えていると、同席する女性マネージャー武田
の一言から打ち合わせは思いがけない展開を
迎えることになり・・・。
「この度は、すばらしい写真集を作って頂け
るよう、芦田先生のどんなリクエストにもお

応えします・・へ、へアヌードでもなんで
も挑戦しますの・・ど、どうぞ宜しくお
願いします」
マネージャーの武田の指示により男達の前で
声を震わせながら屈辱のセリフを吐く結衣。
すると、カメラマンの芦田は写真集の方向
性を決めたいという大義の元に、いきなり結
衣にこの場でヌードになるよう求めたのだっ
た。
予期せぬ事態に戸惑う結衣。そして、その
様子を見たプロデューサーの井上は、芦田に
加勢するようになり、人気清纯派女優を追い詰める。
「結衣ちゃん、もしかして恥ずかしいの？一
流の女優だったら、どんな時でも、どんな場
所でも、すぐに裸になれるくらい度の胸がな
きゃダメだよ」
その言葉に女優魂を揺さぶられた結衣はつ
いに覚悟を決め、打ち合わせ場所に着ている
物をゆっくりと脱ぎ始める。

やがて、結衣が最後の一枚を脱ぎ捨て一糸
纏わぬ姿になると、その美しくも卑猥な裸に
男達は魅了され、カメラマンの芦田は胸の奥
から湧き上がる欲情のままに人気清純派女優
に対して次々と卑猥な要求を浴びせながらシ
ヤッターを切り続けていく。
そうして、人気清純派女優の前代未聞の過
激なヌード写真集の撮影の幕が上がったのだ
った。

■ 第一章 写真集の打ち合わせ

主演する人気ドラマの撮影が終了したとい
うのに、今をときめく清纯派女優、我妻結衣
は多忙な日々を過ごし、仕事の移動の時に車
の窓から街の景色を眺める時くらいしか息を
抜ける瞬間はなかった。
このまま私のことを誰も知らない世界に行
けたら、どんなに楽になれるだろう・・・。
街を行き交う人々の姿を見つめていると、結
衣は自然にそんなことばかり考えてしまい、
いつも憂鬱な気持ちになった。
今、マネージャーの武田が運転する車で向
かっている場所は都内にある撮影スタジオで
そこでは新しい写真集の打ち合わせが行われ
る予定になっていた。
多忙を極め、その裏で得体の知れない者達
から脅迫されている結衣は、マネージャーの

武田から写真集の話聞かされても、正直特
に何の感慨も湧かなかった。
国民的女優にまで駆け上がった結衣は心身
共に疲弊し、与えられた仕事を淡々とこなす
ことに精一杯で、雑誌のインタビューを受け
ている時も、イベントに出席している時も、
CMの撮影をしている時もいつも、得体の知
れない脅迫者達の影に怯えていたのだ。
マネージャーの武田は車を運転しながら時
折バックミラー越しに後部座席に座る結衣の
方を見つめ、不敵な笑みを浮かべていた。四
十代の敏腕女性マネージャーは、結衣の弱み
を握る脅迫者達の一人で、人気清純派女優を
貶めるためにいつも一番近くで監視していた
のだった。これから行われる写真集の打ち合
わせも実は人気清純派女優の新たな恥辱劇の
布石に他ならず、それを知っている武田は結
衣が羞恥に喘ぐ姿を想像し、邪な期待に胸を
膨らませていた。

車が撮影スタジオに到着すると、結衣は胸の奥に渦巻く様々な感情を堪えて、一流の女優らしく柔らかな表情を浮かべながら打ち合わせた場所へと向かった。

「結衣ちゃん、今回の写真集の話は、アナタの今後の女優人生を大きく左右するものになるはずだから、心して望むのよ」

マネージャーの武田はエレベーターの中で二人きりになった結衣に強い口調で諭した。

「はい・・・」

武田から何とも言えない圧を感じた結衣は、少し声を上ずらせながら返事をした。マネージャーの武田が脅迫者の一人だということに薄々気づいていた結衣は、もしも彼女の命令に背くような真似をすれば、途轍もない罰が待ち受けているような恐怖心を心の片隅に抱いていた。

エレベーターから降りた結衣は、武田の後を付いて歩いた。もしかして、今日の打ち合わせでも私を辱めるための罠なの・・・？結衣

は、さっきエレベーターの中で聞いた武田の言葉が頭を離れず、打ち合わせの場所に近づくにつれて猛烈に厭な予感がしてならなかった。撮影スタジオの中にある打ち合わせ場所まで来ると、武田が扉をノックして結衣を連れて中へ入った。「今日はどうぞ宜しくお願い致します」武田は部屋の中ですでに待っていた男達に挨拶した。「我妻結衣です。宜しくお願いします」結衣は清纯派女優らしい爽やかな笑みを浮かべて男達に挨拶をした。「どうも、こちらこそ宜しくお願い」最初に挨拶を返してきた五十代くらいのスリッ姿の男は、今回の写真集のプロデューサーを務める井上正春であった。一見すると紳士のようにも見えたが、その目の奥にはギラギラと光る下心のようなものを感じられ、結衣は少し身構えた。

「よろしくです」
次に軽いノリで挨拶をしてきたラフな服装の
四十代くらいの小太りの男は、芦田コージと
いう奇抜な作品で一部のマニア達の間では有
名なプロカメラマンであつた。芦田は見るか
らにスケベな中年親父といった風貌で、その
何とも品のない笑顔は、こないだのドラマで
共演した三流俳優の五味と同じくらい結衣に
は生理的に無理なタイプだつた。
こんな人達と一緒に打ち合わせをするなん
て・・・彼らと挨拶を交わすやいなや結衣
の抱いていた不安は一気に高まり、もはやこ
れから行う写真集の打ち合わせには厭な予感
しかなくなつた。
そうして、結衣の不安をよそに打ち合わせ
は始まり、プロデューサーの井上がまず今回
の結衣の写真集のコンセプトから話し始めた
「結衣ちゃんもすっかり国民的女優として老
若男女に知られる女優さんになつたけど、こ
ないだの主演ドラマで見せた清純派のイメー

ジを裏切るような新たな一面というものを、
ファンは期待していると思うんだ」
そう切り出した井上は、それから先日終了し
た結衣の主演ドラマを観た感想を懇々と語り
出した。結衣が夜の道端で下着姿になって愛
する上司に告白したシーンや、誰も居ないオ
フィスで上司に抱きつき逆レイプしようとし
たシーンなどの名場面について熱く語ると、
結衣はその時の撮影の事を思い出して、下半
身がジワツと熱くなるのを感じた。
「だから、今度の写真集は、ドラマで見せた
ようなアブノーマルでエロティックな女を演
出したんだよ。それで世間にセンセーシヨ
ンを起こして、結衣ちゃんに女優としての確
固たる地位を築いてもらおうと思ってるんだ
井上が身振り手振りを交えてそう熱く語ると
結衣はその熱量に圧倒されてすっかり引いて
しまっていた。
「分かりますわ。私も結衣にはもっと清纯派
のイメージを壊してももらいたいと思っ
ている

んですよ。だから今度の写真集はヘアヌードも全然OKなので、宜しくお願いします」

マネージャーの武田も井上に感化されたかのように熱い思いを伝え、なんとヘアヌードという言葉まで飛び出したのだった。

そんな・・・嘘でしょ。思いがけない武田の発言を聞いた結衣は激しく動揺した。まさかマネージャーの武田が自分のヘアヌード写真まで考えているとはまったく思ってもおらず、そんな写真集を発売することを想像しただけで軽い目眩さえ覚えた。

「マネージャーさんにそう言って頂けると、こちらとしても色々大胆なことをやれるので有難いですな（笑）」

井上はそう言うのと、武田と顔を見合わせ互いに意味深な笑みを浮かべた。

人気清纯派女優を徹底的に辱める、それが二人の共有している思いであるのは間違いないかった。

「芦田先生もどうぞ清纯派女優とか国民的女
優というイメージに縛られずに、大胆な発想
で結衣を撮ってやってください」
武田は、カメラマンの芦田にもそう言って不
敵に微笑みかけた。
「そうですかあ、それじゃあ女優というより
も発情したメス犬を撮るくらいの気持ちでや
らせてもらおうかなあへ笑」
芦田は笑いながらそう言うのと、結衣の体を上
から下まで舐め回すように見つめた。
「いやあん・・この人達一体なんなのよ。
みんなおかしいわ・・。結衣は周りにいる
大人達のあまりに卑猥な会話に心が追いつい
ていかなかった。」
「結衣、良かったわね。芦田先生に撮っても
らえるなんて滅多にないチャンスよ。先生の
どんなリクエストにも全力でお応えしますっ
て、アナタからもちやんと約束しなさい」
武田は結衣が怖じ気づいているのを見ると、
そう言っただけで入れた。

「は、はい・・・」
結衣はそう返事をしたものの、自分の事を発
情したメス犬のようにしか思っていない男達
の前で、爽やかな笑顔を浮かべ、屈辱の約束
をするなど正直考えられなかった。
しかし、マネージャーの武田をはじめ、今
目の前にいる二人の男達も自分の恥ずかしい
弱みを握る脅迫者達の一部に思え、簡単に逆
らう気にはなれなかった。
「結衣、どうしたの？ アナタの最高の写真集
をみんなで作ろうとしているのよ。ヘアヌー
ドでもなんでもやりますすて、ここで約束し
なさい！」
結衣がいつまでも黙り込んでいると武田は少
し声を荒げた。
「わかりました・・・」
マネージャーの武田の気迫に圧倒された結衣
は、とりあえずこの場を凌ぐために、屈辱の
約束をすることにした。

「この度は、すばらしい写真集を作って頂けるよう、芦田先生のどんなリクエストにもお応えします・・へ、へアヌードでもなんでも挑戦しますので・・ど、どうぞ宜しくお願いします」

結衣は羞恥に声を震わせながらそこまで言い終えると、顔を真っ赤に染めて俯いた。

そして、人気清纯派女優の羞恥に咽ぶ姿を見た大人達は、それぞれの胸の奥で邪な想いを膨らませるのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不祥事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>